

## C11b 熊本博物館が所蔵する天文関係資料

原 秀夫（熊本市立熊本博物館）

熊本博物館は、1952年に設立された熊本市立の総合博物館である。自然科学と人文科学の両方を対象としており、地質、生物、理工、考古、歴史、民俗などに分類される資料を所蔵している。60年以上の歴史の中で収集された資料は約12万点にのぼり、その中には望遠鏡や測量器具など天文に関係するものも存在する。

1978年に寄贈された16cm望遠鏡は、近年の調査で、大正期にイギリスから輸入された日本最初の銀メッキガラス反射望遠鏡であることが分かった。

また、江戸後期から明治期のものと考えられる関係資料を多く所蔵している。金属枠を持つ一閑張の遠眼鏡（和製望遠鏡）や、六分儀、大方儀、小方儀に代表される測量器具、渾天儀などである。このうち、六分儀は1858年に大野規周が製作したもので、当初から使用目的であったと考えられる。大方儀や渾天儀は、霊台橋（熊本県美里町）の建設に携わった茂見家に由来する。僧侶である佐田介石が製作させた視実等象儀は、須弥山を中心とした仏教的世界観を表現した天体模型である。

この他に、関連する書物や文書、錦絵などを所蔵している。

講演では、熊本博物館が所蔵する天文関係資料を概観するとともに、これらがどのように収集・調査・展示されてきたか報告する。